

嚥下障害患者に対する水を使わない 超音波スケーラーの使用症例

伊丹市・かわむら歯科 川村 一喜（歯科医師）

【目的】

嚥下障害患者において、注水下での超音波スケーラーの使用は廃液を誤嚥させるリスクがある。かといって通常のスケーラーは時間がかかる。なんとか超音波スケーラーを使用することはできないものか。

【方法】

「お口を洗うジェル」（日本歯科薬品）を用いて非注水下に超音波スケーラーを使用。
対象患者：脳神経外科病院、入院中。経口摂取訓練は始めているものの嚥下障害のため経鼻管による栄養摂取。

【結果】

歯石除去効率・発熱を抑制する効果ともに、注水下での超音波スケーラー使用と遜色ない。廃液に粘性があるため、咽頭部へ流れ込む前に容易に吸引できる。

【考察】

従来の口腔保湿ジェルだと発熱の抑制が不十分になってしまう。それに対し、「お口を洗うジェル」（日本歯科薬品）には溶剤として水が多く含まれており、これが発熱の抑制に寄与すること。